

成熟社会研究所

Center for Mature Society Research

第 3 号

Newsletter

活動報告



学生チームとともに！



記事一覧：



学生チーム × 地域連携

シニアプラザいばらき編&小豆島編

学生メンバーが地域で視察・取材・インタビューを行いました！



「信頼の現場」研究会 報告！－特別公開講座を開催－

『生き心地の良い町』著者・岡 檀さんに聞く！



4月から「食」をテーマにしたプロジェクト（科目）を開講します



2016 年度シェアラボ開催報告－とびこめ、未知へ！－

シニアプラザいばらき編

(大阪府茨木市) 実施日：2016.9.14

[学生チーム] 吉村理沙 (心理学部)、西野美具 (社会学部)
奥田早弥 (心理学部)、濱田卓宏 (国際教養学部)

異世代間の交流とコミュニケーション
学生チームが地域の視察・取材・インタビュー

学生
チ
ー
ム

左：シニアプラザいばらき利用者の方々
右：タブレット講座に参加中の学生



シニアと学ぶ・シニアに学ぶ

2016年9月14日、追手門学院大学の学生チーム4名が茨木市桑田町にある「シニアプラザいばらき」を訪問取材しました。

シニアプラザいばらきは、シニアカレッジ茨木やシルバー人材センターなど茨木市のシニア団体の活動拠点となっている施設です。

取材メンバーは、社会学部、心理学部、国際教養学部の2回生で、朝から夕方まで丸一日シニアプラザに滞在しました。

当日は、各種活動の見学や体験、利用者へのインタビュー等を行い、事務局の方からは、シニアプラザの特徴や運営する多数の事業についても説明を受けました。

講座体験では、タブレット講座、はつらつ体操、謡曲に参加。タブレット講座では、学生はサポー

ター役として使い方を教えながら、シニアの参加者の方々と積極的にコミュニケーションをとりました。学生がシニアの方々から旅の楽しさを教えてもらう場面もありました。シニアと学生との交流のよき時間となったようです。

お昼の時間は、「街かどデイハウス※」の一つであるオアシス平田を訪問し、地域の方が作られた家庭料理を堪能しました。

学生らは取材終了後、聞き取り内容、気になったこと、提案事項などを、取材レポートとしてまとめました。**2017年夏頃にはシニアプラザの方々への報告会を予定しています。**

※**街かどデイハウス**：健康維持や仲間づくりなど高齢者の地域での自立生活を支えるため、民家等を利用してNPOや市民団体が運営する事業。茨木市では20ヶ所以上で実施

学生の感想より

※紙面の都合上、一部掲載となっております。
※学年は調査当時のもの。



吉村理沙さん (心理2)

訪問してみての一番の印象は、明るくはつらつとした気さくな方ばかりで、とても居心地の良い素敵な空間だということでした。「オアシス平田」は、ご飯を食べるだけではなく楽しくコミュニケーションがとれる場所でした。普段このような施設に行ける機会というのはなかなかないため、どれも新鮮な体験でした。

西野美具さん (社会2)

掃除もシルバー人材の人が朝していて、高齢者の方が活躍する場所で、高齢者の方たちが裏方でも活躍している点がいいところだと思いました。日常的に若者が高齢者に学ぶ場、共に学べる施設となれば、日ごろ関わる機会の持ちにくい高齢者の方と若者が関われるので、さらに良い施設になると思いました。

奥田早弥さん (心理2)

シニアプラザのみなさんは、もっとよりよくしよう、もっと活躍しよう、もっと利用してもらえるにはどうしたらいいかを考えていて、若い人にはない力を感じました。シニアプラザは、働きたい人、学びたい人、教えたい人、友だちと喋りたい人など、色々なタイプの人たちに合った施設だと思います。

地域連携

小豆島編

(香川県小豆郡) 実施日：2016.10.9～10

〔学生チーム〕 奥田佳祐（地域創造学部）、藤沢勇作（地域創造学部）
塚本晶子（地域創造学部）、前田栞子（心理学部）
西野美具（社会学部）、奥田早弥（心理学部）



左：島民インタビューを行う学生
右：島内視察で訪れた旧土庄小学校

学生が感じた小豆島の今

成熟社会研究所と株式会社メッツ研究所との共同研究「若者からみた小豆島の生活、芸術祭、Iターンについて その課題と可能性についての調査研究」の一環として、追手門学院大学の学生チーム6名による小豆島の視察&島民インタビュー調査を2016年10月9日～10日にかけて行いました。学生メンバーは地域創造学部、社会学部、心理学部の2回生で、事前ワークで視察ルートなどを話し合ってから、島に渡りました。

1日目は島内視察です。2チームに分かれ、島外の一般観光客としての若者視点で、観光地や店舗、瀬戸内国際芸術祭などを訪問し、そこで出会った人々に簡易インタビューをしながら島内を巡りました。バスの系統や時刻が複雑なため、皆アクセスに苦労し、全て予定通りにまわれたわけでは

ありませんが、「行けなかったところは次はぜひ行きたい」と島再訪問の気持ちは高まっていました。

1日目夕方および2日目は、島民へのインタビューを実施。3チームでそれぞれ3組、合計9組10名のIターン・Uターン者（30代中心）にお話を伺いました。どの方も、学生の質問に丁寧に応じてくださり、島民の方々の思いに触れた学生は皆、より一層、小豆島に惹かれたようでした。

視察後、学生チームは調査内容をまとめるため、大学で編集ミーティングを重ねて、「小豆島レポート」を仕上げました。

3月に開催された小豆島地方創生有識者懇談会の席では、成熟社会研究所の佐藤所長がこのレポートについて報告しました。参加された方々は、学生の着眼点に興味をもってくださったそうです。

奥田佳祐さん（地域2）

小豆島は、行く前にイメージしていたのとは全く違って、若者がたくさん島に移住し、国内外問わず観光客の方が多く、活気がありました。おしゃれなカフェがたくさんあり、道も整備されており、島民の方々もとても優しく「ここに住みたい!」「また来たい!」と思えるような素敵なところでした。

藤沢勇作さん（地域2）

島民の方々の小豆島に対する愛がものすごく強いと感じました。島に移住してきた方やUターンで戻ってきた方、ずっと小豆島に住んでいる方などに実際にインタビューしましたが「小豆島のために何かしたい!」という明確な目標を島の皆さんがそれぞれ持っていて、私自身とても刺激を受けました。

塚本晶子さん（地域2）

「行けなかった場所がまだまだあるから」というのが、私がまた小豆島に訪れたいと思う理由のひとつです。バスの本数を増やすことなどはもちろん必要だと思います。しかしそれらだけにとらわれすぎるのではなく、小豆島の穏やかな時間の流れや雰囲気大切にしていってほしいと強く感じました。

前田栞子さん（心理2）

小豆島の魅力は人のあたたかさだと思います。インタビューでIターンの方が「小豆島の人にはあたたかく受け入れてくれる」と言っておられ、こんな近所付き合いが出来たら理想だな、と思えるような関係を築いておられました。小豆島に移住する人が増えている理由がわかった気がしました。



岡檀氏による特別公開講座の風景（2016.7.4）



風伝館（アマタグループ）見学（2016.8.17）



C S 神戸・飛田さんによる講演（2017.3.7）

特別公開講座を開催 『生き心地の良い町』 著者・岡檀さんに聞く！

「信頼の現場」
研究会 報告！

全国でも極めて自殺率が低い徳島県の旧海部町において、4年に渡る現地調査でその「自殺予防因子」を解き明かした、岡檀さん（おか・まゆみ／和歌山県立医科大学保健看護学部講師）をお招きし、2016年7月4日、追手門学院大学にてご講演いただきました。

岡さんは、海部町の「5つの自殺予防因子」の内容とその背景を中心に、とても分かりやすく解説してくださいました。

学生・教職員・一般の方を合わせて約70名の参加があり、講演を聞いた方からは「地域に根付いた調査が、興味深かった」「まちづくりや学校、企業、家庭、市民活動、福祉、病院など、様々なところで通じる視点と感じた」「今後の社会にどのように生かせるか考えていきたい」といった感想がありました。

なお、同年10月には、学外研究者主催の海部町視察調査に参加する機会を得たため、成熟社会研究所から1名が参加しました。

■研究会アーカイブ

- ・2016.7.4 **第3回研究会** ～岡檀さんとの意見交換会
- ・2016.8.17 **第4回研究会** ～企業訪問
ゲスト：熊野英介氏（アマタホールディングス株式会社 / 信頼資本財団）
- ・2017.3.7 **第5回研究会** ～企業・地域における「信頼の現場」
ゲスト：奥田浩之氏（りそな銀行）、飛田敦子氏（C S 神戸）

※成熟社会研究所が事務局を務める「信頼の現場」研究会は、2015年11月より始動
大学・企業・NPOなど、学内外の様々な分野のメンバーで構成されています。

食 4月から「食」をテーマにした プロジェクト（科目）を開講します

成熟社会研究所の村上亨先生が担当教員となり「**企業との講座企画プロジェクト**」を開講します。

「食」をテーマに、若者のニーズを探り、学生が講座を企画・運営するプロジェクトです。プロジェクトの様子はまた随時レポートしたいと思います！

2016年度 シェアラボ開催報告

学生・教職員・一般まで、誰でも同じテーブルで議論できる参加型研究会「シェアラボ」、3期目を迎えた2016年度は「とびこめ、未知へ！」をテーマに4回開催。

参加者は、のべ123名（内学生64名）。

- 5/23 「山伏、来る！」 ゲスト：星野文紘氏
- 7/7 「海外、行っとく？」 ゲスト：湯川カナ氏
- 10/13 「仕事って、何だ？」 ゲスト：青木真兵氏
- 12/8 「あなたの中の光と闇」 ゲスト：荒井崇史氏

発行：追手門学院大学 成熟社会研究所 Center for Mature Society Research

567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15
TEL:072-665-5068
seijuku@otemon.ac.jp
http://www.otemon.ac.jp/
https://www.facebook.com/otemon.seijuku

■研究所メンバー■

所長：佐藤友美子（追手門学院大学 地域創造学部教授）
副所長：神吉直人（追手門学院大学 経営学部准教授）
所員：村上 亨（追手門学院大学 基盤教育機構教授）
神谷聡子、中川啓子（編集担当）